

研究No. (記載不要)	17 - デ学 - 8
-----------------	-------------

平成 17 年度配分 研究成果の概要

研究名	公共交通の役割を担うタクシーの再考とデザイン提案				
配分を受けた特別研究費	デザイン学部長特別研究費				3,300 千円
研究者 氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究の 場合の分担
	デザイン学部	生産造形学科	教授	河村暢夫	全体計画と推進
共同 研究 者	デザイン学部	生産造形学科	教授	河原林桂一郎	情報計画
	デザイン学部	生産造形学科	教授	黒田 宏治 (平成 15・16 年参加)	都市交通
	デザイン学部	生産造形学科	教授	佐井 国夫	サイン計画
	デザイン学部	生産造形学科	教授	迫 秀樹	人間工学
	女子美術大学 デザイン学部	デザイン科	助手	桜井 龍	立体造形
	デザイン学部	教務職員	技術 指導員	成田 晋	立体造形
	外部	自営	デザイ ナー	高山 靖子	内装・外装デザイン
発表の方法 (予定で可)	1 紀要 静岡文化芸術大学		号 数	第 6 巻 (2006 年 3 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法: 展覧会 研究報告の 25 枚のパネルと模型展示 (静岡文化芸術大学: 西ギャラリー) ・雑誌「カースタイリング」への掲載		発表日 (発表日)	平成 17 年 6 月 27 日～7 月 3 日 2005 年 9 月号	

注: 配分を受けた翌年度の 6 月末までに提出

(研究の目的等)

公共性の高い移動手段としてのタクシーは、社会の要請として都市計画を含めた総合的な見地から改革を迫られている。特に都市公共交通としての役割を果たす上でユニバーサルデザインの視点が望まれている。タクシーは自動車や電車・バスのような大量輸送手段ではなく、戸口から戸口へのきめ細かい輸送手段である。社会福祉が定着現代、タクシーにおいても寝台や車椅子対応等の福祉タクシー、食事の配達まで担当するデリバリータクシー、患者の発生を病院にいち早く通報して患者を運搬するタクシー等々、様々な需要に応えたタクシーが増えている。しかし現状では量産の車両がタクシー仕様となっているために、乗降性、運転手の健康、料金の授受、人間工学からの客席の検討、昼夜の視認性等々新規の設計が望まれている。また、IT化に対応する可能性も視野に入れて提案した。

(研究の実施方法等)

タクシーの実態を多くのレポートや文献による実情をスタッフが解読に努め、昼夜のタクシーの視認性を撮影して分析を進めた。タクシー営業所にも出入りして聞き取り調査も行った。また、往復ハガキによるアンケート調査を実施した。乗客とドライバーからの回答が集まり設計上の参考になった。同時にデザインの検討に入り、数多くのスケッチを作成して、1/5設計図を作成した。今回の設計手段としてCAD・CAMを利用することも研究の目的でもあった。乗降性を検討する目的もあってCAD図面を番線に合わせて針金でケイジモデルを作成した。同時進行してクレイモデルを作成した。最後にはCAMによる模型が完成した。

(得られた成果等)

研究を公に発表する必要から①展覧会形式および、②静岡文化芸術大学紀要に掲載することに決定した。展覧会は平成17年6月26日から7月3日の1週間、静岡文化芸術大学西ギャラリーにおいて開催した。入場者は400名をカウントされた。研究論文は平成18年3月静岡文化芸術大学の紀要第6巻に掲載された。

また、中日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社の朝夕刊に報道された。展覧会会期中に雑誌カースタイリング(2005,9,)に8ページをさいて、静岡文化芸術大学の施設紹介を含めて掲載された。この雑誌は国際的な雑誌であり世界に向けて発表したことになった。

浜松市内のタクシー組合の役員の来館があり、今後もこのような研究を期待するという評価を受けた。